

父隆直、源家在忠功、不幸而屬源義經、被誅、後賴朝公在感歎之、子孫召鎌倉、賜肥後國所々知行、

隆繼次郎父先死去

能隆彌二郎

實ハ隆繼子也、關東エ被召出、賜肥後國、承久亂高名嫡孫タルニヨリ、爲祖父于繼家督、

〔肥陽軍記四〕肥後征伐之事

肥後國は古より菊池殿領成しが、去ぬる永正二年、大友にほろぼされ、其後國主なくして年をへる。天文廿年、大友義鎮軍を出されける時、國中悉相隨かふ。大友則伯父義武を國主にすへ、菊池と號しけるが、此度大友衰て、義武力を失ひたもちがたし、折を得て龍主先年より肥後を謀り給ふ。城、赤星、心を通しければ、多く御支配と成たり、今年政家公家種を召させられ、二萬餘騎にて肥後國を治給ふ。信生公軍事を司さどり、筑後の諸侍を催し、軍粧きを盡し、兵威山野をうごかして、肥後國へぞ向はれける。略中鳥津屋形義久も、耳川利の後日向を取のみならず、豊後肥後をあはせんとせらる。此時肥後に來りて龍家と和平をと、のへらる、にいはいはく、肥前筑前筑後豊前の四ヶ國切取の國なれば、龍造寺の御支配たるべし。大薩日の三州は申におよばず、大友をほろぼし、豊後迄は島津より領し申べし。肥後國をば兩家より半國宛領し、九州の兩大將とあふがれ候べしと、約諾畢て歸國す。即龍造寺家晴を南の關に置、肥後の御仕置等を定られ、政家公は御歸城有、諸人參り集り、五州平均の事を賀申す。古士の説に、肥後國は高洲川限と御約束有しと云々。〔川角太閤記三〕一上様○豊臣夫より御人數一萬許りにて、加古島へ被成御座候。○中無程肥後國熊本へ被成御入。○略中

一當國は、平和の者に被遣者ならば、一揆發すべき事必定なり、さらば佐々内藏助を被召出、此國にはめ可被置なりと思召被付、其時内藏助を被召出ぬけめなしに一國內藏助に被宛行候、